

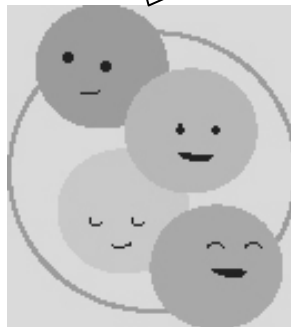
3月、スタッフトレーニングとスタッフミーティングを行いました。午前中は、「自閉症疑似体験」をしました。体験を通し色々な人がいて自分の見方だけが全てではない。ちょっとした思いを持つことや工夫することで困っている人が生きられやすくなる。人の多様性について知り、工夫することの大切さを学びました。

午後からスタッフミーティング。「maruについて」、「来年度について」話しました。

「maru ってどんな団体なんだろう?！」私の思いとスタッフの思いを1年間の活動を通して見つめ直し、改めて話し合いました。

- ・ 障害があってもなくても同じように楽しめる場
- ・ いろいろな人と出会える場
- ・ 普段では会わない人と出会い、色々な所で外遊びできる場
- ・ スキルより、遊び心を大切にしている場。
- ・ たくさんの人が関わって作られている場。
- ・ カヤック・水遊び・クロスカントリースキー・キャンプを楽しむ場

- ・ 体験を通して、いろいろなことを吸収し、成長できる。
- ・ 自分が知らないコミュニケーションの勉強ができる。



- ・ 自分も楽しみながら参加して他の人と仲良くなれる。
- ・ 参加する人の感覚を大切にしている。
- ・ 開放感を与えている。
- ・ 子供の時期から障がいのある人と接する場をつくることで、障がいのある人とない人が協力しあう点を自然に身につけることができ、偏見が少なくなると思う。

- ・ 障がいのある人に目を向けているめずらしい団体。
- ・ 障がいのある子供のプログラム団体。

maru って どんな団体?

maru 設立

最初のきっかけは・・・

知的に障害のある人とかかわることになったのは、今から10年以上前、偶然勤めた、知的障害児施設がきっかけでした。そこで、はじめてみた障害のある人の環境は、驚くものでした。知的障害が理解されず偏見の目。理解してくれる人もいるのですが、なかなか近寄ってもらえない現状。施設職員は少なく、日々の生活に追われ余裕がない。また、施設の中は、あらかじめ決められた生活があり、利用する人は、その限られた中から自由を見つけていました。仕事も生活も余暇もすべて施設が抱え、同じ人が関わる。安心だけれど変化が無く単調な毎日でした。

障害のある人を取り

まく環境。他に何があ
るのか?次に、養護学
校へ行きました。学校

には、たくさん先生の先生がいて、ほとんど全員の先生が生徒に声をかけてくれていました。友達も年齢をこえてたくさんいます。時間にも余裕があるし、授業も工夫されて、適度に変化と刺激がありました。年齢にあわせ、身体もいっぱい動かせます。

しかし、学校は長くても十二年しかいられません。卒業後の人生のほうが長いです。卒業したらいきたいの人は、社会に出ていくか、施設や作業所などに行きます。余暇や新しい経験に出会う機会が減ります。うまく就職できたのはいいけれど、障害を理解してもらえないばかりいるわけではなく、その上、家と職場の往復のみになり、息ずまって二次的な障害（ひきこもる・精神病）などになることもあります。

障がいのある人の余暇

そんなことを知るうちに、障害のある人の余暇に興味を持つようになりました。障害のある人の余暇は、他の子供と比べても興味の範囲が限定的であつたりテレビやゲームなどの家庭内の活動に偏っていることが指摘されています。

青年期になると前文で書いたように家と施設、家と職場、もしくは生活を含め全てが施設で簡潔しているというところも多いです。からだを動かすことも減り、肥満傾向だったり、年齢相応にからだを動かさないこともあり有り余った力の出しどころがなく、それが暴力や問題行動へつながっているケースもあります。本人への情報も少なく周囲の思い込みや決め付け、いく

つになつても決定権は家族にあるなど、ますます活動範囲が限定され、余暇の過ごし方が問題になってきます。そうであるにも関わらず、知的に障害のある人の余暇の支援について学習面、就労、生活ほど重視されていないように感じます。

遊びから生まれる可能性

遊びは、障がいがあるなしに関わらず、人生を豊かにすることへとつながる重要なもののように思います。また、先に楽しみ展望を持つことで日常生活が安定していきます。それは、絵を描くこと、ダンスをすること、その他でも、好きなことならどんなことでもいいと思います。

野外活動は、日常から離れた場なので、普段とは違う面が出やすく、また、「これをしてはいけない」「をせねばならない。」ということも少ないです。自由度の高い野外活動の中で、身体を五感を使って遊ぶことができます。また新しい人に出会った時、知らない人同士で接すると、構えてしまうことがあります。



ますが、遊びを通して接すると比較的気軽な気持ちで触れ合えるようになります。このようなことから、自分を解放して、自分の存在、生きがいを感じ、学びを得られると確信しています。

知的に障がいのある人のプログラム

(ねらい・目的)

自然という非日常の中で、新しい経験をすることにより、一人一人が持っている可能性を發揮できる場、自己の発見できる場、コミュニケーションの場、そのままの自分でありと感じる場や自尊心を高められる場づくりを目的としています。

(活動内容)

ハイキング、カヤック・いるかと泳ぐ、キャンプ、木登り、雪遊び、クロスカントリースキー

障がいのある人とない人のプログラム

(ねらい・目的)

自然の中という開放感のある場所で、遊びを通して障がいのある人にとない人が出会える場、障害のある人と実際接しながら障がいに対しての理解の一步となる場づくりを目的としています。

(活動内容)

カヌー、クロスカントリースキー



雪の森で遊ぼう！

IN 奥日光

2月2日・3日・27日・3月1日の報告

障害のある人もない人も様々な人が出会える場の提供
年齢も障がいも関係なく一緒に遊べればと思い企画しました。

1400Mに位置する大湿原と豊かな森林をもつ奥日光。雪の世界は、夏のむせ返るような緑とは違いました。一面の銀世界。

参加した人は、雪を見れば、「わっ！」と歓声を上げ、大興奮！早速、雪遊び。

クロカンの板を用意しているのを見れば、「やる～～！」といい、転んでもめげず、広々とした場所を好きなように歩いていました。

昼はチーズフォンデュにチョコレートフォンデュを食べました。雪の中で食べるお昼は一味違っておいしく最高です。

そして、午後からハイキングへ。森の中を自分のペースで歩いたり、滑ったりしました。森には、不思議な木や、夏とは違う風景、そして時に猿などの動物にも会いました。はじめは、転んでめげていた人たちも帰りの頃になるとスーイスイ♪上手に歩いていました。

大人は、後日筋肉痛だった事はいうまでもありません。笑



大きい雪玉を作ったよ。
いけー！
あてちゃえ！



チーズフォンデュやチョコレートフォンデュおいしいよ～～♪

沖縄県西表島への旅

今年1月、沖縄県西表島に出かけてきました。
みなさんに自然や人との出会いを是非伝えたい！感じて欲しいと思いました。

2009年
3月末行き
ますよ～♪



西表島に行くために、東京から沖縄県石垣島まで飛行機にのり、そこから船で渡りました。

今回、案内してくれたのは、余語さん。会って早々、海に連れて行ってくださいました。まず、海を見て驚きました！白い砂浜、エメラルドグリーン^①の海。海ってこんなに美しいんだ～。さっそく潜って遊びました。色とりどりの魚にサンゴ礁。1月の寒さを忘れさせてくれるぐらい海が美しかったです。

他にもマングローブの生い茂る川の中へカヤックで漕ぎ、滝を見に出かけました。カヤックから見る風景は、ダイレクトに自然を感じることができます。カヤックを降りジャングルの中を少し歩くと、まるで冒険のよう！今まで見たことのない不思議な木や植物がありました。独特の雰囲気^②の深い森。その先には、美しい滝がありました。もちろん、飛び込んで遊んだ事はいうまでもありません。

なにより印象深かったのが、地元の方との出会いでした。伝統工芸をしている、のーじさんに地元の植物を使ってひしゃくなどの作り方を教えてもらいました。そこから見える昔の暮らし・・・作ることを通して教えていただきました。余語さん、のーじさん、偶然であった方々、みな暖かく、自然と人との本心に大切にしていました。ここには書ききれませんが、生き方そのものから学ぶことが多くありました。日光に帰った今でも影響は多々あります。

2009年3月、沖縄県の西表島へ5日行く旅を企画します。飛行機に乗って美しい海、豊かな森、そして地元の人とのふれあいの旅。2度目は、開催未定です。この機会をお見逃しなく～(^ ^) /

紹介します！

障がいのある人もない人も、『自分達でやりたいことを考えてやっちゃおう！』企画から活動までしちゃいます。

メンバーは、年齢も関係性も様々で障がいのある人もない人もいます。

月に1回〜3回、話し合ったり、活動したりしています。集まる日は、皆の都合次第。話し合いの時、司会がいるわけでもなく、その場の雰囲気が進めていきます。

はじめは、なかなか案がでなかったり、がんばりすぎたり・・・皆、ぎこちなく、やっていたんですが、活動を通して仲良くなり、今では、やってもらう、やっであげるとい関係は薄れて自分達で作る場になってきました。

送迎などは、自分で来る人、家族に頼む人メンバーに自分でメールや電話などの連絡を取り頼むなどしています。

今までの内容は、六斎市に参加する、誕生日をする、温泉に行く、ラーメンを食べ

『やりたいことをやっちゃおうクラブ(仮)』

に行くなどなど。

費用は、実費。

3月の話し合いでは、

「野球観戦に行きたい！」

と、自分でいろいろ調べてきている人がいました。話し合いの中で、

「療育手帳が使えるか？」

「どうしようか？」

と話している

「ぼくがかけるよ。なんて言えばいい？」

と、障がいのある方が、自ら志願して電話をしていました。

自分のやりたいことは、すぐには出ないし、頑張り方もわかりません。でも、ひとつひとつ挑戦し積み重ねること、「そのままでもいいんだよ」という空気、仲間がいることで一歩前に出ることができ、気持ちよい場になっていくように思います。

もちろん、私も自分のしたいことを必死に訴えています。もう少し頑張ったらみんなやらせてくれるかな？

みなさんも一度遊びにきませんか？

事務局 NPO法人 おおきな木
問い合わせ 0288・22・7756



六歳市の様子

お知らせ

★まるまるクラブ

1年間通しての活動をします。
身近な栃木県をメインに年に5回(8日間)行ないます。
アウトドアってやったことがないから不安！そんな初心者の方でも楽しめる企画になっています。
素敵な特典つきの企画です。詳しくはチラシをご覧ください。

★HPが開設します。

4月21日からHPが見られます。丸井さんという方がデザインしてくれました。お楽しみ！下記のアドレスです。

●ありがとうございます●

私の中にやりたいこと、理想はたくさんあります。ただ、現実的に一人ではできません。参加してくれる人がいないとできないし、サポートしてくれる人がいなくてもできません。

一年間やってこられたのも、そういう方々に支えていただいたお陰です。私は何が返せるのか・・・返そうとしてもなかなか返せるものではなく、ましてや本人には返せないのかもしれない。私ができる事は、自分が受け取った分、次に流していくことなのかもしれないと思っています。

応援してくださった方々、ご協力してくださった皆様、ありがとうございます。そしてこれからも、よろしくお願いたします。

野澤 奈緒子

ボランティアスタッフ を募集しています。

自然が好きな方、アウトドアが好きな方、人が好きな方、是非一緒に遊びましょう！！



● 問い合わせ、お申し込み ●

『 maru (まる) 』

〒321-2335 栃木県日光市森友500
Tel/Fax 0288-23-7602
Mail nyaon222@yacht.ocn.ne.jp
携帯 080-6582-8965
HP <http://mito.cool.ne.jp/nyaon222/>